Lesson 6　Bass Riffs with the Blues

Lesson 6　ブルースにおけるベースライン

今回はブルースにおいて、Ⅰ（トニック）コードからⅣ（サブドミナント）コードに、そしてⅠ（トニック）コードからⅤ（ドミナント）コードに移る場面で使えるベースラインを見て行こう。
もちろんキーはＥだよ。
ベーシックなＥコードは前に学んだ通りこんな感じ(0:17)だね。
キーＥのブルースにおけるⅣ（サブドミナント）コード(=A7)はこれだね（0:27)。
このコードの型は、キーＥのブルースをやるときにおいてオーソドックスな A7 のボイシングだよ。
Ⅴ（ドミナント）コード、つまり B7 のボイシングはこんな感じ（0:41)。
中指が 5 弦 2 フレット B で、人差し指が 4 弦 1 フレット D#、薬指が 3 弦 2 フレット A、2 弦は開放 B で、最後小指が 1 弦 2 フレット F#。
今度は逆に高い方から弾いていくと…(1:13)

(1:21)
今やった 2 つが、ギターを始めたころに最初に父から教わったコードだよ。
これでみんなは当時の僕より一歩先に進んだわけだ（笑)

(1:34)
じゃあブルースをやるよ！
覚えてるかな？
まずは最初のベースラインだよ。

-playing(1:41)-

薬指で低い G（6 弦 3 フレット）を弾いているよ。
もし中指がいいならそれでも構わないよ。
薬指を使った方がより柔軟な動きが出来るだろうからいいと思うけど、どちらでも OK だ。

(2:19)
今度はⅠコードからⅣコードへの移動だ。
Ⅳコードの 5 弦開放の A への上昇だね。こんな感じだよ。(2:29)
スライドっぽく（6 弦開放→3 フレット→4 フレットを経て 5 弦開放へ）なんかもいいね。
どんな方法でもいいけど、例えば僕なら中指（6 弦 3 フレット G）と薬指（6 弦 4 フレット G#）を使って 5 弦開放の A へ行くね。
そんな感じで、（経過音などの）音を増やしても面白いね。

(2:53)
右手については、ダウン・アップを交互にするオルタネイトピッキングなんかが考えられるね。
実際に僕はダウン→アップ→ダウン→ダウンで弾いたよ。

でも、一つの弾き方に固執することはないよ。そういう考え方は、特にブルースをやるうえでとても大切な考え方だと思うな。つまり、柔軟にね。

-playing(3:23)-

(3:38)
今度はＶコード（B7）へ行くよ。
（6 弦開放から）6 弦 4 フレット G#へスライドアップするよ。
そして 5 弦開放 A、人差し指で 5 弦 1 フレット B♭、そして（中指で）5 弦 2 フレット B だ。
テンポに合わせてこのコードを弾いて行くよ。ダダダァ…という感じ。

-playing(4:11)-

そして、前回のレッスンでやったブルースリックだ。

-playing(4:19)-

【注記】
・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている個所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
・モードの解説において「〇〇スケール」と「〇〇モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳　山岸敦